

新計量システムを活用した業務の流れ

フォークリフトのドライバーが、コンテナに取り付けられているICタグの情報をハンディターミナルで読み取る。フォークリフト上で計量したコンテナの重量情報とコンテナ番号の情報を専用端末上で紐付け、関連する付加情報を入力し、ドライバーがサーバーへデータを送信する。サーバーに蓄積された情報をJAL事務所内で確認し、必要な情報を追加登録した上でJAL基幹システムに転送する。JAL基幹システムにて航空機に搭載する際の重量バランスを計算し、航空機内でのコンテナの配置を決定する。決められた配置に基づき、機体にコンテナを搭載する。

